

山田中学校青春期（1 本目）

- ・ ノブオ（村役場の出納係の息子）
- ・ カズヒコ（温泉組合会長の息子）
- ・ ミツテル（町おこしに失敗した父親の息子）
- ・ 小杉（東京からの転校生）
- ・ 女子 1
- ・ 女子 2

舞台に一条の光が伸びてくる。その先にノブオが立っている。

ノブオ 1993年、僕たちはどうしようもなく中学生だった…。

声（マイク越し） 位置について。よーい。スタート！

M1（運動会の曲）、C. I。

カズヒコ、ノブオ、ミツテル、女子 1、2 が一列になって走り出す。
全員でポーズを決める！

全員 僕たち、私たち、中学せーい！うっふう！

風景 1。

女子 1 （女子 2 に）おはよー。

女子 2 おはよー。昨日のウッチャンナンチャン見たー？

カズヒコ そうれ！（女子 1 のスカートをめくる）

ノブオ そうれ！（続けてめくる）

女子 1 きゃああ！

女子 2 何するのよ！待ちなさい！！

カズヒコ パンツ丸見え。パンツ丸見え。

ノブオ パンツ丸見え。

女子 2 こらー！

風景 2。

女子 2 （女子 1 に）友達と同じ人を好きになっちゃったらどうする？

女子 1 友達とるに決まってんじゃん。

女子 2 あたしも。でももしそういうことになったら、絶対言おうね。約束だよ。

女子 1 うん。

風景3。

ミツテル (キメて) よせよ！二階から飛ぶなんて！

ノブオ 危ないぜ。

カズヒコ いや、俺は飛んでみせる。なぜなら俺は、男だからだ。

ノブオ (一人セリフ) あのころ、高いところから飛ぶのがなぜあんなにステータスだったのだろう。

カズヒコ おりゃああ！(飛ぶ)

二人 (歓声)

ノブオ 飛んだ！(一人セリフ) ようし、俺も！

ミツテル 僕だってやってみせる！おりゃー！！(飛ぶ。その直後) ぎゃあああ！

カズヒコ あいつ、足がヘンな方向に曲がってるぞ！

ノブオ 写真に収めよう！

カズヒコ だれか、写ルンです持ってないか！

風景4。

女子2 性格の悪いイケメンと、優しい不細工だったら、どっちと付き合う？

女子1 やさしいぶさいくに決まってンじゃん。

ミツテル (二人の会話を聞いていて、ノブオに) 彼女、いい子だなー。

カズヒコ (入ってきて) よっ。

女子1 あ、カズヒコ君。宿題教えてー。

カズヒコ なんだよ。ミツテルに聞けよ。

女子1 えー？カズヒコくんがいいー。

ミツテル えっ？

風景5。

ミツテル 僕、いけてないのかなー。

ノブオ ああ。お前いけてないな。

ミツテル えっ。

風景6

M1、F. O。

カズヒコ ♪イノセントワールド

女子1 かつこいいー。

カズヒコ ♪イノセントワールド
ノブオ (出てきて) ♪果てしなくー
ミツテル (出てきて) ♪続くー
三人 (肩を組んで) ♪イノセントワールド

肩を組んで笑いあう三人。青春の一風景。

M2 (イノセントワールド)、F. I。

ノブオ カズヒコとミツテルと僕、ノブオー。この三人はいつも一緒だった。小さい村だから他に遊び相手がいなかったんだ。カズヒコはこの村一番の温泉旅館の息子だった。すげー。うちの親は村役場の出納係だった。さえねー。そしてミツテルの親は町おこしに失敗した父親の息子だった。もっとさえねー。

M2 (イノセントワールド)、F. O。

ところ変わって山。

カズヒコ (ミツテルに) なんでやらないんだよ。
ミツテル え？
ノブオ そうだよずるいぞ。ミツテルだけスカートめくりをしないで。
ミツテル そ、そんなことしちやいけないんだぞ。
カズヒコ でたよ。ミツテルの「そんなことしちやいけない発言」
ノブオ 本日10回目の。
カズヒコ いいか、ミツテル。僕ら、堂々とスカートめくりができるのは中学生までだぜ？
大人になってやってみろ。い、淫行罪で逮捕だぜ。
ノブオ 八百屋の川田さんみたいにな。
カズヒコ そうだそうだ。万引きが出来るのも今だけだ。大人になったら窃盗罪で逮捕だぜ。
ノブオ 八百屋の川田さんみたいにな。
カズヒコ そうだそうだ。カツアゲできるのも今だけだ。大人になったら恐喝罪で逮捕だぜ。
ノブオ 八百屋の川田さんみたいにな。
三人 川田さん、悪いなあ！！
カズヒコ あんな大人にはなっちゃいけないな。(ミツテルに) お前も、なるんじゃねえぞ。
ミツテル うん。

M3 (チャイムの音) C. I。

翌日の教室。

カズヒコ なあ～。ノート写させてよ。

ミツテル ダメだよ。カズヒコ君がちゃんとノート取らないのが悪いんだろ？

カズヒコ なんだよ、ケチ。ケーチンボー。

ミツテル け、けちとは何だ！僕は、君のためを思って貸さないんだぞ！

ノブオ、現れる。

ノブオ ヘへ。見てくれよ。(ちょっとエッチな雑誌を出す。)

カズヒコ うわっ！！

ミツテル プ・プレイボーイ！！

カズヒコ どこで手に入れたんだよ！

ノブオ 墓場だよ。

カズヒコ マジで。

ノブオ いっぱい落ちてた。その中で僕の気持ちに一番フィットするやつを選んできたのさ。

ミツテル 見ちゃいけない！

カズヒコ え？

ミツテル こ、こんなもの、学校に持ってきちゃいけないんだぞ。先生も言ってたじゃないか。

カズヒコ バカだなあ。先生だって家に帰れば読んでるよ、エロ本くらい。

ミツテル バカな！

カズヒコ 先生だって男だぜ？

ミツテル 先生はそんなことしない！

女子1、2、現れる。

女子1 何読んでるの？

慌てて隠す男子たち。

カズヒコ なんでもないよ。

女子2 あやしい！捕獲！

女子1 ラジャー！

女子たち、本を奪おうとする。必死に抵抗する男子。

本をパスしあう（主にミツテルの方へ）。

ミツテル、壁際に追いやられる。

女子2 （本を見て）エッチー。

ノブオ　　はい。それミツテル君のでーす。
女子1　　ミツテル君、ひわい。
ミツテル　僕じゃない。僕じゃない。(エロ本を踏んで泣く。)
女子2　　わかったから。もうわかったから。
女子1　　(カズヒコに) カズヒコ君はグラビアアイドルで言えば誰が好きなの？私、その人に近づきたい。
ノブオ　　(女子2に) お前らつきあっちゃえよ。
女子2　　何言ってんのよ。

M3 (チャイムの音) C. I。

放課後の教室。

カズヒコ　カメハメ波って本当に出るらしいぜ。
ノブオ　　マジで？
ミツテル　はっは。あれはマンガの話ですよ？
カズヒコ　いや、二組の林が、ちょっと出せたらしい。
ノブオ　　マジで？
カズヒコ　林が言ってたんだけど、自分が心から「カメハメ波は出せる」って思ってやったら、本当に出るらしい。
ノブオ　　マジか。
カズヒコ　ミツテル、やってみろ。
ミツテル　いやだよ。カメハメ波やるぐらいなら、崖から身を投げた方でしたよ。
カズ・ノブ　(うける)
ミツテル　じゃあ、ちょっとだけだぞ？カ・メ・ハ・メ・波ー！！

女子1のスカートがめくられる。

女子1　　きゃー。
男子達　　…。
ミツテル　カ・メ・ハ・メ・波ー！！

女子1のスカート、再びめくれる。
男子たち、目を見合わせる。

ノブオ　　超能力だった。まさかの展開だったが、ミツテルは超能力者だったのだ。
ミツテル　うおおおお！！

M4 (小鳥のさえずり)、C. I。以下の会話途中で適当にF. O。

山。スプーンを持っているミツテル。曲げようとしている。

ミツテル むん！むん！（曲がらない）
カズヒコ ダメか。
ノブオ 色々やったけど、ミツテルはスカートをめくるという超能力しか使えないよう
だな。
カズヒコ つまんねー。
ミツテル 何だよお。すごいじゃん！超能力だよ？
ノブオ もう忘れようか？
カズヒコ だな。
ミツテル ちょっと！
ノブオ （去りながら）そんな超能力、意味ないぜ。
カズヒコ （去りながら）言いすぎだぜ、相棒。
カズ・ノブ （コミュニケーション）
ミツテル 待ってよ！お願いがあるんだ。僕のこの力がナサとかにばれたら、必ず人体実験
されてしまうだろう。だから、このことは絶対に秘密にしといてほしいんだ。
ノブオ 当たり前さ。
カズヒコ これは俺たちだけの秘密だ。
ミツテル ありがとうみんな。僕たちは、親友だよ！
ノブオ そんな時、転校生がやってきた。

M5 (なんらかの音楽)、C. I。

転校生・小杉、現れる。

小杉 東京から引っ越してきました。小杉です。みんなよろしく。

皆、小杉を輪になって囲む。

女子1 東京ってどんなところ？
小杉 絶望が支配する町さ。笑ってる人間なんて一人もいやしない。
ノブオ マジで？流行が最先端なメガタウンなんだろう？
小杉 それはうわべだけさ。みんな、心の中は毒ガスまみれだ。自分たちの毒で、自分
たちが死んでいく町さ。
ミツテル この村はどう？
小杉 ここは凄くいい村だね。僕はずっとここにいたいと思うよ。
一同 おお。
ノブオ 彼のクールさに、僕たちはしびれた。そして彼がちょいちょい挟んでくる東京ミ
ニ情報にも、僕らはしびれた。
小杉 （東京ミニ情報）

一同 おお。
小杉 (東京ミニ情報)
一同 おお。
小杉 (東京ミニ情報)
一同 おお。
女子1 今日日直だったー。(女子2とはける)
ミツテル 先生に呼ばれてたんだっ (はける)
小杉 この村で何か面白いことはあるかい？
ノブオ えー？あ、そうだ！(ミツテルを指して) あいつ、超能力が使えるんだぜ。
小杉 ほう。
カズヒコ それよりもっと東京のを聞かせてよ！
小杉 東京ではね…。
ノブオ 僕らは夢中だった。しかし僕らがアホ面をさげて東京にほう、と言っている間に、小杉は着々とことを進めていたのだった。

ミツテル、去る。カズヒコとノブオも去る。

ミツテル ふう、ふう。
小杉 ミツテル君。ストップストップ。
ミツテル ミスター小杉。
小杉 よしてくれよ、そのあだ名は。
ミツテル だってみんな君をそう呼んでるよ。君を尊敬するあまりに。
小杉 はっは。
ミツテル あ、ごめんね。僕せいてるんだ。早くあいつらのところに行かないと。
小杉 あいつらって、カズヒコとノブオかい？
ミツテル うん。僕が買ってきたメロンパンが、一番おいしいっていうんだぜ。そういわれたら、買いに行かないわけにいかないよね。
小杉 なるほど。それであいつらは君を、奴隷と呼んでいるんだね…。
ミツテル ウソだ！君はウソをついている！
小杉 ヘイ、ユー！
ミツテル イ、イングリッシュだ。
小杉 do you believe in Kazuhiko and Nobuo?huh?
ミツテル y,yes.They are my important friend.
小杉 複数形？
ミツテル friends.
小杉 OK.but...what do you have in your hands?
ミツテル melon pan.
小杉 いいじゃないか。あいつらとつるまなくても。君ほどの人間なら。

ミツテル 僕ほどの？
小杉 君、超能力を使えるんだってね。
ミツテル なぜそれを。
小杉 あいつらが喋ったのさ。
ミツテル 内緒だって言ったのに！信じてたのに！
小杉 まあまあ、人をせめても、幸せにはなれないからね。そんなことよりミツテル君、僕と組まないか？
ミツテル 君と？
小杉 ああ。君が僕とつるめば、世界を手に入れることができる。
ミツテル せ、世界を。
小杉 そうだ。僕の手をとれ。君はなんだってできる。You can do it. You can do it.
ミツテル Can I do it?
小杉 Yes, you can do everything!

M6 (何かの衝撃音) のちすぐM7 (チャイムの音) C. I。

翌日。カズヒコとノブオがいるところに、ミツテルがやってくる。

カズヒコ ノブオ やいミツテル、なんで昨日は来なかったんだよ。
ノブオ 俺、メロンパンすごく楽しみにしてたんだぞ。これは、罰を与えないといけな
な。

そこにやってくる小杉。

小杉 ミツテル君、はっきり言ってあげなよ。昨日は僕と遊んでいたってね。
カズヒコ 転校生。
小杉 ミツテル君はもうきみたちとは遊ばない。僕と遊ぶのさ。行こう。

小杉、ミツテル、はける。
女子1・2がすれ違いざまに入ってくる。

女子1 カズヒコ君。どうしたの、悲しがつてる。あたしが慰めてあげる…。
女子2 え？何があったの？
カズヒコ 友達が。
ノブオ 友達が奪われたのさ！

M8 (怪しい音楽)、C. I。

照明、怪しくなる。

地下帝国のようなところ。「ミツテル帝国」の看板が見える。

帝王のようなミツテルと傍に控えた小杉。

小杉 次、川下君。

川下 ひとみちゃんのスカートをめくってください。

小杉 よし、100円だ。

ミツテル はー！

小杉 次、川上君。

川上 よしこちゃんのスカートをめくってください。

小杉 いい趣味してるな。500円だ。

ミツテル はー！

小杉 次。川北君。

中学生3 じゅんこちゃんのスカートをめくってください。

小杉 お前、マニアだな。3000円だ。

ミツテル はー！

ノブオ これがミツテル帝国の全貌だった。ミツテルと小杉は、クラスメートたちから請け負って、超能力でお目当ての女の子のスカートをめくってやるというビジネスを立ち上げたのだ。勿論秘密厳守。金も手に入るし、何よりも誰が誰を好きという究極の情報を握ることができる。完璧なシステムだった。一瞬でミツテル帝国は、裏社会のトップに躍り出た。一週間もすれば、誰もこの2人には逆らえなくなっていたのだ。勿論、僕たちさえも。

M8、F. O。

照明地明かりに戻る。

ミツテル、うまい棒を両手に持ち、二個食いしながら現れる。

小杉と楽しそうに語らっている。

ミツテル 僕、すげーんじゃない？僕、すげーんじゃない？

小杉 君はすごいよ。

カズヒコ ミツテル。

ノブオ なあ、たまには俺たちと遊ぼうぜ。昨日のアメトーク、面白かったよな。

小杉が立ちはだかる。

小杉 おっと、ミツテル君と話す時には、僕を通してくれないかな。

カズヒコ お前は関係ないだろ。

ノブオ 俺たちはミツテルと話してるんだよ。

小杉 ミツテル君は僕と一緒にいるのが楽しいってさ。きみたちはこれでも読んでなよ。それっ！（エロ本をやる）

ノブオ　　なんだよ、こんなもので！
カズヒコ　（読んで）悪くないかも。「SMファン」…。(無言ではける)
ノブオ　　カズヒコ？
女子1　　（黒板をの上の方を必死に消そうとして）届かない…。
ノブオ　　消してやるよ。(消す。そしてはける)
女子1　　ノブオ君…。

M9 (怪しい音楽)、C. I。

照明怪しくなる。

ミツテル帝国。

小杉　　次、山下君。
山下　　なおみちゃんのスカートをめくってください。
小杉　　よし、500円だ。
ミツテル　なおみちゃんの…？
小杉　　ミツテル君？どうしたんだい？
ミツテル　やれ！

ミツテルが指を鳴らすと、SPたちが現れて、中学生4を連れて行く。

山下　　ぎゃああ！

山下、始末される。

ミツテル　だめだ、今日はもう気分が乗らない！解散！

M9、F, O。

小杉　　ミツテル君。
ミツテル　なぜだろう。なんだか僕、むしようにいけすかなかったのさ。
小杉　　ミツテル君。(肩に手をやる)
ミツテル　ミスター小杉、どうしてきみは僕にこんなによくしてくれるんだい？
小杉　　ははっ、友達に親切にするのは普通じゃないか。
ミツテル　しかし…。
小杉　　実は僕も、使えるのさ。超能力を。
ミツテル　ええ！どんな能力なんだい？
小杉　　鉛筆の芯を尖らせる能力さ。今、地味だって思ったかい？
ミツテル　そんなことないよ！（はしゃぐ）

小杉 無理するな。
ミツテル ごめん。…なんで今まで黙ってたんだい？
小杉 怖かったのさ。この力のせいで僕は東京を追われた。「小杉君の鉛筆、いつもとがってるー」とか言われてね。でもミツテル君、僕はこの村で君に会えた。僕たちは選ばれた人間だ。
ミツテル (うなづく)
小杉 僕たちなら、魔界への門を開くことが出来るかもしれないぜ。
ミツテル 魔界への門？

M10 (怪しい音楽) C. I。

小杉 ああ。この村には奇妙な伝説が存在するんだ。「2人の男と2人の女、そしてもう一人の人物がある行為をすれば、魔界への門が開く」と。
ミツテル あ、ある行為って？
小杉 それはまだわからない。今、八百屋の川田さんから買ったこの古文書を解読中なんだ。
ミツテル ス、スゲー。
小杉 開こうぜ、魔界への門を。そして気に入らないやつを魔界に追放しよう。
ミツテル ひっひっひ！いいね、やろうやろう！
小杉 だけど門を開くのに2人の女が必要だ。ミツテル君、協力してくれそうな女子に心当たりはないかい？
ミツテル ……あるよ。僕たちの作る新しい世界の住人にぴったりな子だよ。

それを聞いているノブオとカズヒコ。驚愕の表情。

ミツテルと小杉、去る。

M10 (怪しい音楽) F. O。

カズヒコ とんでもねえ話だぜ！魔界への門なんて、俺が開かせねえ！
ノブオ いや、開こう！
カズヒコ 何でだよ！
ノブオ 小杉を魔界へ追放するんだ。そうすればミツテルも僕らの元に帰ってくる。
カズヒコ ニュー。
ノブオ 女子にも協力してもらおう。

M11 (チャイムの音) C. I。

照明、地明かりに戻る。

女子のところにくるミツテル。
ところが時を同じくして、カズヒコとノブオもそこにくる。

男たち あのさ。

男たち、一瞬顔を見合わせるが、すぐに顔を背ける。

女子1 何何？

ノブオ ちょっと聞いてほしい話があるんだけど。

女子1 うん！なにー？

女子2 キャー、なおちゃん、キャー！

ミツテル あの、僕も話があるんだけど。

女子1 あとでいい？ていうか来年でいい？

ミツテル えっ…。(隅に行く)

女子1がノブオに対して鼻息が荒い。

女子1 ノブオ君。あたし、もうだめ！

女子2 なおちゃん、まさか今？今いくの？

女子1 だってあたし今日いって決めてたんだもの。(深呼吸) ノブオ君、好き！ずっと好きだったの！つきあって！

ノブオ ええ？ちょっとお前ら、今そういう話してんじゃないじゃん。

カズヒコ えっ…。

女子1 ね、いいでしょ、ノブオ君。

女子2 キャー、なおちゃん、キャー。ノブオ君、どお？この言葉を聞いて。

ノブオ ま、いいけど。

女子たち キャー！

ノブオ 今までそんな好きじゃなかったけど、好きって言われたら俺も好きなのかなって思ってきたし。

女子たち 正直ー！でもいいー！

カズヒコ そ、そんな。お前俺のこと好きじゃなかったのかよ。

女子1 えー、全然ー。

ノブオ 余談だが、カズヒコはこの時のショックがもとで、これ以降二次元の女しか愛せなくなるのだが、それはまた別の話。

そこへやってくるミツテル。

ミツテル へへ。なんだろうこの気持ち。胸にぼっかりと穴が開いたような。

ノブオ ミツテル。

ミツテル なおみちゃん、ひどいよ！僕は、僕は…。

女子1 何？
ミツテル な、なんでも。へっ、なおみちゃん、見る目ないのな。ノブオ君なんかと。
ノブオ どういう意味だよ。せっかく俺たち、お前の心配してやってんのに。
ミツテル へっ、僕の心配？ノブオ君なんかに心配されるほど、僕は落ちぶれちゃいないよ。
僕はね、僕はね、超能力を使えるんだよ？
女子1 へー、どんな超能力？
ミツテル スカートがめくれるのさ！
女子たち ふーん…。
ミツテル いや、すごいんだって、男子的には！くそお、なんだよ！僕は選ばれた存在なんだぞ。女の子のスカートをめくれる、つまり禁断の扉を開けることができるんだ！カズヒコ君にも、ノブオ君にも、そんなことできないくせに！
ノブオ できるぜ。
ミツテル えっ？う、ウソだ！だったら、やってみろよ！
ノブオ (女子1に) な、いいだろ？ちょっとだけ。つきあってんだから。
女子1 えー、もうー、ノブオ君にだけだよ？(自分のスカートを少しめくってノブオに見せる)
ノブオ ヒュー！な。
ミツテル な、何した！！今、何した！！
ノブオ ご覧の通りさ。俺はスカートをめくれる。誰も傷つけずに、一切の力も使わずに。時間が経てばもっとエロいこともできるだろう。一生スカートめくりしかできないお前と違ってな。もてるっていうのは、力さ。超能力なんかより、ずっとすごい、力さ。
ミツテル くそう！僕のほうが！

ミツテル、超能力で女子1のスカートをめくろうとする。
だが女子1が手でスカートをおさえたため、めくれない。
女子1、ミツテルにびんたをして、ノブオにスカートをちらりとしてやる。

ノブオ うほっ。
ミツテル ちくしょうー！！
女子2 (独白) 最低だった。今この場には最低な人間しかいなかった。彼(ミツテル)も、彼女(女子1)も最低だったが、なにより彼(ノブオ)が最低だった。あまりに最低で、彼はナレーションをしゃべる権利を失ったので、ここからは私がナレーションを担当しようと思う。ミツテル君とカズヒコ君は打ちひしがれていた。まるで浜辺に打ち上げられたわかめのように…。カズヒコくん。
カズヒコ 話しかけないでくれ。
女子2 そのままでいいから聞いて。あたし、カズヒコ君のいいところいっぱい知ってるよ。泣いてた四歳児を、おんぶしてあげてたよね。

カズヒコ (はっとする)

女子2 ミツテル君。

ミツテル 女なんて最低だ。

女子2 そのままでいいから聞いて。ミツテル君、巣から落ちた雛を、そっと巣に戻して上げてたよね。そういうところ、見てる人は見てるから。あと、スカートめくられると、女子ははずかしいんだぞ？

女子2に惹かれるカズヒコとミツテル。

そこへアケリアスを持った小杉がやってくる。

小杉 ミツテル君、そろそろミツテル帝国に、

ミツテル 僕は、今、無償の愛を、見つけたよ。ミツテル帝国なんて、どうでもいい。

小杉 そんなバカな！

M1 2 (激しい音) C. I。

派手な照明。

女子1 きゃー！

カズヒコ 何だ？

女子2 何？

女子1 (上手奥を指して) あっちになにかある！

全員、見る。

M1 3 (勢いのある音楽)、C. I。

上手奥が闇に包まれている。

小杉 もしかして…魔界への門が開こうとしているのか？

女子2 魔界への門？

ミツテル まさか今、条件が揃ったの？

小杉 かもしれない！

女子2 どういうこと！

女子1 ノブオ君。怖い。(ノブオに接触)

ノブオ うほっ。

ミツテル (ノブオに) 好都合だ。お前なんて、魔界へ落ちてしまえ！

ミツテル、ノブオにやられる。

小杉 ミツテル君！加勢するよ！

カズヒコ (小杉に立ちはだかり) 待てよ。お前の相手は、昨日コーヒーがブラックで飲めるようになったこの俺だ。

小杉 へえ。僕はすでに、エスプレッソを飲んでるぜ。

カズヒコ 勝負だ！

小杉 僕の能力を見せてやる！

小杉、鉛筆を取り出す。

M14 (シャキーン！みたいな音)。

カズヒコ とがった！痛い痛い。

ミツテル 小杉君、加勢するよ！

小杉 ミツテル君、悪いけど来ないでくれ。足手まといだ。

ミツテル そんな！

女子2 (小杉とカズヒコに) こんな時にやめなさいよ！

女子1とノブオ、キスしようとしている。

女子1 ノブオ君。キスするの？

ノブオ なんか、俺的に盛り上がってるし。

ミツテル、「うわー」と言いつつ、ノブオと女子1のところに行く。

ミツテル 学校の中で接吻なんてしちゃいけないんだぞ！

ノブオ じゃまするな！

ミツテル、はじかれて小杉とカズヒコのところへ。

女子2 (カズヒコと小杉に) やめなって！

ノブオ 学校の中でケンカなんてしちゃいけないんだぞ！

小杉 邪魔だよ！

ミツテル、小杉にはじかれて、女子2に抱きついてしまう。

女子2、「キャー」と言いながら、ミツテルを突き飛ばす。

ミツテル、魔界の門に吸い込まれる！

ミツテル (つかまりながら) うわあー！！

女子2 ミツテル君！

カズヒコ ミツテル！

ノブオ ミツテル！ “
ミツテル 助けてくれ！

M15 (風の音) C. I。

魔界への門へ風が吹く！
全員、魔界へ吸い込まれそうになる！

全員 うわあー (とか)
ミツテル 吸い込まれる！みんな！僕は金も地位もある！助けてくれ！
女子2 なんて助けたくない助けの求め方だろう！
小杉 ミツテル君、このエンピツにつかまれ！
ミツテル 届かない！
女子2 このスカーフにつかまって！
ミツテル 届かない！

カズヒコとノブオ、アイコンタクト。カズヒコがノブオの腕を持ち、ノブオがミツテルに腕を伸ばす。

ノブオ ミツテル、つかまれ！
ミツテル ノブオ君。ありがとう！僕、いやな奴になっていたのに…！
女子1 ノブオ君やめなよ。危ないよ。だってあっち、魔界だよ？

ノブオ、あっさり戻ってくる。

ノブオ それもそうだな。
小杉 確かに。
ミツテル ちょっと！
ノブオ ミツテルごめんな。助けられなくて。
ミツテル うわあー！！

ミツテル、魔界へ吸い込まれる。

M13、15、F. O. M16 (門が開いた時と同じ音) C. I。5秒くらいでF. O。

M17が消えるのにあわせて地明かりに戻る。

魔界への門が閉じる。

女子2 魔界への門が、閉じた…。
小杉 ああ、僕、ミツテル君が唯一の友達だったのに…。
ノブオ 小杉。大丈夫だよ。俺、彼女もできたし、気分いいから、お前のことも許すよ。

これから仲良くしようぜ。

カズヒコ お前とのファイト、なかなかだったぜ。

女子2 こうして、ミツテル君は魔界に堕ちた。その後、男子たち三人はわだかまりもとけ、なかなか楽しい中学校生活を送ったみたい。ケンカしてもすぐ仲直りできるって、男の子って、うらやましいな！

M17 (運動会の曲) C. I。

暗転。

終わり。